

# ここまで進化 卒業アルバム新技術

## 写真選び、顔認証で省力化

### 児童の登場回数 AIがカウント

児童・生徒が学校を卒業していく時期となった。今も卒業アルバムは在学中の様子を記録にとどめ、振り返る貴重な品として、卒業生の手に渡っ

ていくが、技術の進化も著しい。新しい技術を採用してどのようなアルバムが実現しているのか。各地の動きをまとめた。

卒業アルバムに載せた写真で、ある子は登場回数が多く、ある子は少ない。そんな事態を回避するために、これまで人手と時間を費やしてきたが、人工知能(AI)を使った顔認証システムで一気に省力化する動きがある。

紙のような表を作り、横軸に掲載候補の写真の番号、縦軸に卒業予定の児童の名前を記入。掲載候補写真に写っている児童のマスに丸印を付ける。

その後、丸印の数を児童ごとに数え、掲載候補写真全体の中で何回登場しているかを確認。その上で、候補写真を絞り込んでいた。

児童の保護者の中から選ばれた卒業対策委員に来校してもらい、一連の作業をこなしてきた。

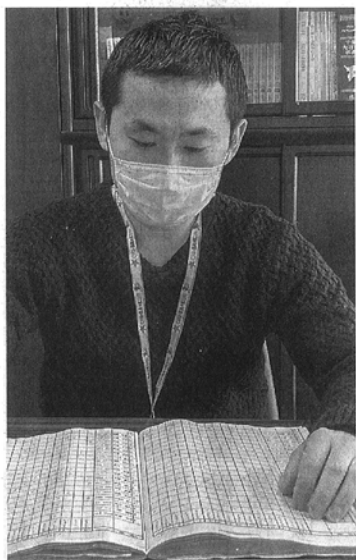
昨年3月に卒業した児童のアルバムがAIシステム活用の第1号となった。それ以前は、①掲載候補となった写真を選択②その中から卒業生それぞれが何回ずつ登場するか数える③児童の登場回数を一定の範囲に抑えて載せる写真を決める」という手順をたどった。

このうち、「②卒業生が何回ずつ登場するかを数える」が延々と時間を費やす単純作業だった。

昨年3月に卒業した児童のアルバムがAIシステム活用の第1号となった。それ以前は、①掲載候補となった写真を選択②その中から卒業生それぞれが何回ずつ登場するか数える③児童の登場回数を一定の範囲に抑えて載せる写真を決める」という手順をたどった。

昨年3月に卒業した児童のアルバムがAIシステム活用の第1号となった。それ以前は、①掲載候補となった写真を選択②その中から卒業生それぞれが何回ずつ登場するか数える③児童の登場回数を一定の範囲に抑えて載せる写真を決める」という手順をたどった。

「このシステムは、児童・生徒それぞれ1人ずつの写真を登録しておき、デジタルカメラで撮影した写真をアップロードすると、1人ずつ登録した写真とAIが照合する。その結果として、掲載候補写真の中に、児童・生徒それぞれが何回登場するかが表示できるようになる。」



人工知能システム導入前に使っていた作業ノートを手にする東條正興主幹教諭。千葉県柏市立手賀西小学校

東條主幹教諭によると、マスクを着用している、眼鏡をかけるようになる。

今年度はコロナ禍の真ただ中。卒業対策委員の保護者は校外で作業する必要はなくなった。同小学校では本年度も、このシステムを使い、卒業アルバムを制作してきた。このシステムを開発したエグゼック(東京・目黒区)は、「アルバムスクラム」の名で、商品化している。主に、写真館向けの商品と位置付けている。料金は写真館が支払うため、学校側の負担はまちまちだという。

この取り組みは、文科省が昨年3月に公開した「全国の学校における働き方改革事例集」に収録された。以後、海外の日本人学校など、多くの学校から、同小学校に問い合わせが寄せられている。

## NEWS インサイド



人工知能で写っている写真を読み取るシステムの画面。アルバムに掲載する候補となった写真の中に、どの児童・生徒が合計で何度出ているか表示される＝エグゼック社「アルバムスクラム」の紹介動画から